

4 . さて、大ぜいの人の群れが集まり、
また方々の町からも人々がみもとにやって来たので、イエスはたとえを用いて話された。

5 . 「種を蒔く人が種蒔きに出かけた。
蒔いているとき、道ばたに落ちた種があった。
すると、人に踏みつけられ、空の鳥がそれを食べてしまった。

6 . また、別の種は岩の上に落ち、生え出たが、水分がなかったので、枯れてしまった。

7 . また、別の種はいばらの真中に落ちた。
ところが、いばらもいっしょに生え出て、それを押しつぶさしてしまった。

8 . また、別の種は良い地に落ち、生え出て、百倍の実を結んだ。」

イエスは、これらのことを話しながら

「聞く耳のある者は聞きなさい。」と叫ばれた。 Ὁ ἔχων ὡτα ἀκούειν ἀκουέτω.
pt. inf. 命

9 . さて、弟子たちは、このたとえがどんな意味かをイエスに尋ねた。

10 . そこでイエスは言われた。

「あなたがたに、神の国の奥義を知ることが許されているが、ほかの者には、たとえで話します。
彼らが見ていても見えず、聞いていても悟らないためです。

11 . このたとえの意味はこうです。

種は神のことばです。

12 . 道ばたに落ちるとは、こういう人たちのことです。

みことばを聞いたが、あとから悪魔が来て、
彼らが信じて救われることのないように、その人たちの心から、みことばを持ち去ってしまうのです。

13 . 岩の上に落ちるとは、こういう人たちのことです。

聞いたときには喜んでみことばを受け入れるが、
根がないので、しばらくは信じていても、試練のときになると、身を引いてしまうのです。

14 . いばらの中に落ちるとは、こういう人たちのことです。

みことばを聞きはしたが、とかくしているうちに、
この世の心づかいや、富や、快楽によってふさがれて、実が熟するまでにならないのです。

τὸ δὲ εἰς τὰς ἀκάνθας πεσόν,

οὗτοί εἰσιν οἱ ἀκούσαντες,

καὶ ὑπὸ μεριμνῶν καὶ πλούτου καὶ ἡδονῶν τοῦ βίου πορευόμενοι

心配、思煩い

生活、生活費、財産、人生、一生

συμπνίγονται καὶ οὐ τελεσφοροῦσιν.

συμπνίγω pre.pass. 締め上げる、窒息させる、圧倒する 殺す

15 . しかし、良い地に落ちるとは、こういう人たちのことです。

正しい、良い心でみことばを聞くと、それをしっかりと守り、よく耐えて、実を結ばせるのです。

τὸ δὲ ἐν τῇ καλῇ γῆ,

οὗτοί εἰσιν οἵτινες ἐν καρδίᾳ καλῇ καὶ ἀγαθῇ ἀκούσαντες τὸν λόγον

κατέχουσιν

κατέχω

(1)(金品を)持つ、所有する、(教えを)堅く守る、保つ (2C 6.10);

(イエスを)引き止める(LU 4.42)、(墮落を)抑止する(2TH 2.6) 阻む (RO 1.18); 席に着く (LU 14.9);

(2) pass. つないでいた、縛っていた (RO 7.6)

καὶ καρποφοροῦσιν ἐν ὑπομονῇ.

καρποφορέω

(1) (文字通り) 実を結ぶ

(2) (良い、あるいは悪い行いの) 実を結ぶ

ἐν ὑπομονῇ.

「**忍耐**をもって善を行ない、栄光と誉れと不滅のものを求める者には、永遠のいのちを与え、」 ロマ 2:7

「しかし、神の人よ。あなたは、これらのことを避け、正しさ、敬虔、信仰、愛、**忍耐**、柔和を熱心に求めなさい。」 テモ
6:11

「老人たちには、自制し、謹厳で、慎み深くし、信仰と愛と**忍耐**とにおいて健全であるように。」 テトス 2:2

「その**忍耐**を完全に働かせなさい。

そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」 ヤコブ 1:4

「こういうわけですから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には**忍耐**
を、**忍耐**には敬虔を、敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。」 ペテロ 1:5-7

迫害の中、主に従う信仰に

「しかし、あなたは、私の教え、行動、計画、信仰、寛容、愛、**忍耐**に、またアンテオケ、イコニオム、ルステラで私にふりか
かった迫害や苦難にも、よくついて来てくれました。何というひどい迫害に私は耐えて来たことでしょう。しかし、主はいっさ
いのことから私を救い出してくださいました。確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受け
ます。しかし、悪人や詐欺師たちは、だましたりだまされたりしながら、ますます悪に落ちて行くのです。けれどもあなたは、
学んで確信したところにとどまっていなさい。」 テモテ 3:10-14

ヘブル書に於いては、約束のものを手に入れるために必要不可欠なものとして忍耐が説明される。

「あなたがたが神のみこころを行なって、約束のものを手に入れるために必要なのは**忍耐**です。」 ヘブル 10:36

「こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷
とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を**忍耐**をもって走り続けようではありませんか。」 ヘブル 12:1

ヤコブ書に於いてもそのように説明される。

特に、ヨブを例に挙げて説明する。

「見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いであると、私たちは考えます。あなたがたは、ヨブの**忍耐**のことを聞いています。また、
主が彼になされたことの結末を見たのです。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられる方だということです。」 ヤコブ 5:11

黙示録に於いては、神の教えを最後まで守り抜かせる極めて重要なキーワードを意味する。

「私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、あなたがたとともにイエスにある苦難と御国と**忍耐**とにあずかっている者であって、
神のことばとイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。」 黙示録 1:9

「あなたが、わたしの**忍耐**について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来よう

としている試練の時には、あなたを守ろう。」 黙示録 3:10

「地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。耳のある者は聞きなさい。とりこになるべき者は、とりこにされて行く。剣で殺す者は、自分も剣で殺されなければならない。ここに聖徒の忍耐と信仰がある。」 黙示録 13:8-10

「また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。『もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。』」 黙示録 14:9-12

説教

このイエスさまのみことばは、いわゆる「種まきのたとえ」です。

同じ話はマタイの福音書 13:1-23 とマルコの福音書 1-20 にも出てきますが、

マタイとマルコでは

「良い地に蒔かれる種」が

「30 倍、60 倍、100 倍の実」を結ぶと言われているのに対して、

ルカの福音書では

「100 倍の実」を結ぶとのみ言われている点が異なります。

また、例えば「道ばたに蒔かれる種」に関する説明の場合、

マタイやマルコでは

「みことばが道ばたに蒔かれるとは、こういう人たちのことです。

～みことばを聞くと、すぐサタンが来て、彼らに蒔かれたみことばを持ち去ってしまうのです。」

という具合にあっさり説明しているのに対して、

ルカでは

「道ばたに落ちるとは、こういう人たちのことです。

みことばを聞いたが、あとから悪魔が来て、

彼らが信じて救われることのないように、

その人たちの心から、みことばを持ち去ってしまうのです。」という風に、よりよく解説している様に見受けられます。

ところで、「種まきのたとえ」は時代を超えて様々に理解されてきました。

例えば、2-3 世紀の古代教会時代にあえて結婚をしない処女童貞が歓迎賞賛されていた時には次のように言われました。

「殉教者には 100 倍の報いが、

処女には 60 倍の報いが、

その他のキリスト者には 30 倍の報いが約束されている。」

また、教勢拡大の意味で理解されたり、

100 倍、60 倍、30 倍を現世御利益の意味として理解される場合もあります。

でも、イエスさまはどのような意味でこのみことばを言われたのでしょうか。

ルカの福音書では、

このたとえの直前にある7章で、

イエスさまのみことばを堅く信頼している百人隊長の「りっぱな」(7:9)信仰が証しされ、

みことばを妥協なく宣べ伝えたバプテスマのヨハネの偉大さが証しされ、

それからイエスさまの足を涙と香油で足を洗った女のイエスさまへの深い「愛」(7:47)が証しされます。

そして、さらには8章の1-4節で

「悪霊や病気を治していただいた女たち、

すなわち七つの悪霊を追い出していただいたマグダラのマリヤ、ヘロデの執事の妻ヨハンナ、スザンナ」といった

イエスさまにとってもお世話になって女たちや、

「その他（おそらくこれまた同様にイエスさまに救っていただいた喜びと感謝をもって）

自分の財産をもって彼らに仕えている女たち」が大勢いて、イエスさまと十二弟子に仕えていたことが証しされます。

こういう熱心な女性たちと、

文字通りすべてを捨ててイエスさまに従っている十二弟子の他に、

必ずしもそうではない「大勢の人の群れ」が方々から集まって来た中でイエスさまは「種まきのたとえ」を話されました。

当時パリサイ人やサドカイ人のように

イエスさまのみことばを聞いても全く実を結ばない者がいる一方で、

十二弟子やヨハネ、百人隊長、香油を塗る女、

さらには自分の財産をもって主に仕える女たちのように、

聞いたみことばが種となってその人のうちで豊かに実を結ぶ者たちも確実にいました。

同じみことばを聞いていながら、この違いはどこから来るのでしょうか。

その違いは聞き方にあるとイエスさまは言われます(8:8,17-18)。

「イエスは、これらのことを話しながら、『聞く耳のある者は聞きなさい。』と叫ばれた。」

「隠れているもので、あらわにならぬものはなく、

秘密にされているもので、知られず、また現われないものはありません。」

だから、聞き方に注意しなさい。

というのは、

持っている人は、さらに与えられ、

持たない人は、持っていると思っているものまでも取り上げられるからです。」

それで、四つの種のたとえを話されます。

一度みことばが語られた以上、これら四つの種の状態のうち必ずどれかに当てはまることとなります。

ある人は全く話にならない道ばたの状態で、

また、ある人はみことばの入っていない頑んな岩地の状態で、

あるいはモジャモジャの茨だったり、

そうかと思えば、茨が取り除かれて、素晴らしく良く耕された、みことばがよく育つ柔らかい良い地だったりします。

そこで、私たちは、今の自分自身の状態をよくよく考えながら、このみことばを聴く必要があります。
自分が道ばたなのか、岩地なのか、あるいは茨なのか、はたまた良い地なのかを、よくよく考えなければなりません。
そうして、良い地に耕していく努力が必要です。

それでは、ひとつひとつ見ていくことにしましょう。

まず最初は、「道ばたに蒔かれた種」です。

これは「人に踏みつけられ、空の鳥がそれを食べて」しまいます(8:5)。

- 5 . 「種を蒔く人が種蒔きに出かけた。
蒔いているとき、道ばたに落ちた種があった。
すると、人に踏みつけられ、空の鳥がそれを食べてしまった。」

イエスさまはこれを次のように解説なさいます。

- 12 . 道ばたに落ちるとは、こういう人たちのことです。
みことばを聞いたが、あとから悪魔が来て、
彼らが信じて救われることのないように、その人たちの心から、みことばを持ち去ってしまうのです。

この場合、まず、礼拝に来ない人は論外です。

既に道ばたです。

みことばが教会で毎週蒔かれているのに、それを聞くことさえできないからです。

また、たとえ礼拝に出席した人でも、例えば先週の説教を、ここにいるみなさんは覚えておられるでしょうか？

もしすぐに思い出せないならば、

それはみなさんがみことばを信じて救われることのないよう、
悪魔がみなさんの心からみことばを持ち去ってしまった証拠です。

居眠りしているにせよ、いないにせよ、

右の耳から聞いたみことばがそのまま左の耳から抜けていくような場合、

イエスさまのみことばによれば、

それは、悪魔が、

その人が信じて救われることのないよう、

すなわち、その人がやがて終わりの審判の日には、

悪魔と共に、悪魔の道連れになって地獄に落とされるよう、

その人の心から、みことばを持ち去ってしまうというのでした。

恐ろしい話です。

悪魔は空中の権威を持つ支配者です。

巨大な暗黒王です。

神さまと私たちの間に立って、神のことばが私たちに語られることを全力で阻止します。

そうして、私たちが永遠に滅ぼそうとしているのです。

二番目は「岩の上に落ちた種」です。

これは「生え出たが、水分がなかったので、枯れて」しまいます(6)。

6 . また、別の種は岩の上に落ち、生え出たが、水分がなかったので、枯れてしまった。

イエスさまはこれをこう解説なさいます。

13 . 岩の上に落ちるとは、こういう人たちのことです。

聞いたときには喜んでみことばを受け入れるが、

根がないので、しばらくは信じていても、試練のときになると、身を引いてしまうのです。

この場合、芽は出さずです。

でも、固い岩盤が妨害して根が地中深く張っていかず、

水分補給できないので、日が昇って強い日射しにさらされると枯れてしまいます。

同様に、みことばを聞いても、

それまで生きてきた自分の価値観や宗教、生き方が

巖の如くガンと存在してそれを変える気の無い人は、

みことばを聞いて一時的に感激して涙を流して喜んだとしても結局はそれで終わりです。

茎が成長することもないし、花を咲かせることも実を結ぶこともありません。

そして、結局は芽を出して死んでしまうのです。

三番目は「いばらの中に落ちた種」です。

これは「いばらの真中に落ち」るのですが、

「いばらもいっしょに生え出て、それを押しふさいで」しまいます。

イエスさまはこれをこう解説します。

14 . いばらの中に落ちるとは、こういう人たちのことです。

みことばを聞きはしたが、とかくしているうちに、

この世の心づかいや、富や、快樂によってふさがれて、実が熟するまでにならないのです。

つまり、この場合、種は地に落ちて地中根を張り、芽を出します。

そして、それなりに茎も伸び、葉も茂り、花も咲かせます。

でも、悲しいことに、実を結ばないのです。

どうしてでしょうか。

茨が邪魔するからです。

「この世の心づかいや、富や、快樂」が邪魔をします。

「ふさがれる」とは、「締め上げる、窒息させる、圧倒する 殺す」の意味です。

「この世の心づかいや、富や、快樂」がみことばを窒息させ、殺すのです。

みことばを聞いて、喜んで受け入れ、それなりにクリスチャンらしく生活するようには見えるのですが、

人生のあるいは生活上の「心配や、富や、楽しみ(快樂、欲望)」がみことばの成長を邪魔するため、実を結びません。

次世代の「種」となるはずの実を結ばないのです。

いくら葉を茂らせても、花を咲かせても、

実を結ばない信仰生活は神さまのためにも人のためにもなりません。

それが芽生え育って花を咲かせる意味がないのです。

イエスさまは、実のならないイチジクを呪われました。

三年待っても実のならないイチジクを切り倒すよう命じた主人のたとえを話されました。

『見なさい。

三年もの間、やって来ては、このいちじくの実のなるのを待っているのに、なっていたためしがない。

これを切り倒してしまいなさい。

何のために土地をふさいでいるのですか。』(ルカ 13:7)

そして、エルサレムで、空腹を覚えた時、

実際に、実のならないイチジクを「おまえの実は、もういつまでも、ならないように。」と呪ったため、枯れました。

この話は、いくら葉を茂らせても、花を咲かせても、

実を結ばない信仰生活は神さまのためにも人のためにもならないということを意味します。

それが芽生え育って花を咲かせる意味がないのです。

それは単なる自己満足です。

この地に何の実りももたらしません。

それでは、どうすれば豊かな実りを見ることができるようか。

それは「良い地」に蒔かれることです。

15 . **しかし、良い地に落ちるとは、こういう人たちのことです。**

正しい、良い心でみことばを聞くと、それをしっかりと守り、よく耐えて、実を結ばせるのです。

「正しい、良い心」とは、

これまでとは反対のことです。

つまり、まずは教会に来ることです。

そして、みことばをしっかりと聴くことです。

自分の既成の価値観や宗教、生き方を捨てることです。

そして、自分の生きたいようにはなく、神さまに従って生きることを願ってみことばをしっかりと聞くことです。

そして、一度聞いたみことばはしっかりと堅く守ります。

そして、「よく耐えて」、実を結ばせるのです。

「忍耐」を要します。

それは徹頭徹尾最後までやり抜く忍耐です。

つまり、一回、二回じゃダメなのです。

三回、四回、否、十回、二十回も、百回も二百回も、千回でも二千回でも、

ダメでもダメでも、とにかくうまくいくまでひたすらやり続ける忍耐です。

それは、ヨブの忍耐です。

「見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いであると、私たちは考えます。

あなたがたは、ヨブの**忍耐**のことを聞いています。

また、主が彼になされたことの結末を見たのです。

主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられる方だということです。」 ヤコブ 5:11

使徒パウロの忍耐です。

迫害を耐え忍んで主に従う忍耐です。

「あなたは、私の教え、行動、計画、信仰、寛容、愛、忍耐に、
またアンテオケ、イコニオム、ルステラで私にふりかかった迫害や苦難にも、よくついて来てくれました。
何というひどい迫害に私は耐えて来たことでしょう。
しかし、主はいっさいのことから私を救い出してくださいました。
確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。
..... あなたは、学んで確信したところにとどまっていなさい。」 テモテ 3:10-14

そして、使徒ヨハネが黙示録で言った、
永遠のいのちを獲得するために、最後まで耐え忍ぶ、死ぬまで耐え忍ぶ忍耐です。

「私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、
あなたがたとともに
イエスにある苦難と御国と忍耐とにあずかっている者であって、
神のことばとイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。」 黙示録 1:9

「地に住む者で、
ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。
耳のある者は聞きなさい。
とりこになるべき者は、とりこにされて行く。
剣で殺す者は、自分も剣で殺されなければならない。
ここに聖徒の忍耐と信仰がある。」 黙示録 13:8-10

「また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。
『もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、
そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。
また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。
そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。
獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。
神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。』」 黙示録 14:9-12

つまり、一回や二回、みことばの通りに生きてみて、やってみて、実践してみて、
それでうまくいかないから、迫害されるから、やりたくなくなって、やめる、というのでなくて、
ずうっとやり続けるのです。

最期まで、死ぬまでやり続けるのです。

最後まで耐え忍んで、死ぬまで主に従い通すのです。

そして、そういう者が百倍の実を結ぶとイエスさまは言われます。

それでは、

こういう忍耐によって、私たちはどういう実を結ぶのでしょうか。

みことばの通りに生きることを意味します。

「種」がみことばの「種」であるように、

「実」もあくまでみことばの「実」です。

みことばの通りに生きるという天上の「実」が豊かに実るのです。

みことばの「実」とは何でしょうか。

それは、まず、

永遠のいのちの恵みにあずかるということです。

そして、次には、

永遠のいのちをいただいたことから溢れるところの祝福です。

それは愛です。

喜びです。

平安です。

寛容です。

親切です。

善意です。

誠実です。

柔和です。

自制です。

私たちはどうでしょうか。

イエスさまがこう言われるということは、ここにいる私たち全員が百倍の実を結ぶ人生を生きるようになるためです。

みなさんが、

心空しくみことばを受け入れ、

みことばを堅く守って、

よく耐えて、30倍、60倍、100倍の御霊の実を結ぶ人生を生きて行かれるよう、

そして、この罪の世に神の栄光をあらわして生きていかれるよう祈ります。